

小田原市教育委員会定例会会議録

1 日時 令和6年1月31日(水)午後3時00分～午後3時47分

場所 小田原市役所 3階 全員協議会室

2 出席者氏名

1番委員 柳 下 正 祐 (教育長)

2番委員 益 田 麻衣子 (教育長職務代理者)

3番委員 井 上 孝 男

4番委員 菱 木 俊 匡

3 説明員等氏名

教 育 部 長 飯 田 義 一

文 化 部 長 菊 地 映 江

文化部副部長 湯 山 直 樹

教育総務課長 岡 田 夏 十

学校施設担当課長 志 村 康 次

保健給食課長 竹 井 尚 久

教育指導課長 中 山 晋

教育相談担当課長 西 村 泰 和

生涯学習課長 田 村 直 美

図 書 館 長 佐 次 安 一

スポーツ課長 穂 谷 野 晃

青少年課長 筒 井 孝 博

教育総務課副課長 中津川 博 之

教育指導課副課長 常 盤 敏 伸

教育指導課指導主事 柴 田 典 子

文化財課副課長 小 林 隆

文化財課副課長 長谷川 和 之

その他関係職員

(事務局)

教育総務課係長 三 浦 慶太郎

教育総務課主任 漆 崎 亜 結 美

4 報告事項

(1) ステップアップ調査モデル実施校における成果報告について (教育指導課)

(2) 市議会12月定例会の概要について【資料配布のみ】 (教育部・文化部)

5 議事日程

日程第1 議案第1号 市議会定例会提出議案(令和6年度小田原市一般会計予算)に同意することについて (教育部・文化部・青少年課)

6 議事等の概要

(1) 柳下教育長開会宣言

○柳下教育長 本日の出席者は4人で定足数に達しております。

(2) 12月定例会議事録の承認

(3) 議事録署名委員の決定…2番 益田委員、3番 井上委員に決定

○柳下教育長 ここで、本日の日程についてお諮りいたします。

議案第1号「市議会定例会提出議案（令和6年度小田原市一般会計予算）に同意することについて」を日程に追加し、議題としたいと思います。これに御異議はございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○柳下教育長 御異議もないようですので、ただいまの件を日程に追加することといたします。議事に入る前に、会議の非公開について、お諮りいたします。

先ほど日程に追加しました、議案第1号「市議会定例会提出議案（令和6年度小田原市一般会計予算）に同意することについて」は、令和6年3月小田原市議会定例会への提出案件ですので、小田原市教育委員会会議規則第5条第1項ただし書の規定により、これを非公開といたしたいと存じます。

本議案を非公開とする件について、採決してよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

御異議もありませんので、採決いたします。議案第1号を非公開とすることに賛成の方は、挙手願います。

（全員挙手）

全員の賛成により、議案第1号は、後ほど非公開での審議といたします。

それでは、日程に従い、進めてまいります。

(1) 報告事項(1) ステップアップ調査モデル実施校における成果報告について

（教育指導課）

○教育指導課長 それでは、私から御報告いたします。資料1を御覧ください。

ステップアップ調査につきましては、一人ひとりの学力やよさを伸ばすため、学力の「伸び」を経年で測定し、そのデータをエビデンスとして、授業改善及び個に応じた指導に生かすことを目的として、令和3年度から3年間モデル実施してきました。その報告について、別冊資料にまとめましたので、本日御報告するものでございます。本日の説明は、4ページからなる「ステップアップ調査モデル実施校における成果報告について」に沿って行います。

まず、「1 モデル実施の経緯」については、今御説明したとおりです。

「2 モデル実施の方法と特長」ですが、モデル校は、酒匂中学校区及び泉中学校区の2中学校区、計6校を指定しました。調査内容と実施時期は、記載のとおりです。本調査は、一人ひとりの「伸び」を経年で把握するという特長のほか、学力の伸びに大きく関係する「非認知能力」「学習方法の習得」「主体的・対話的で深い学びの実施」「学級学年経営」について質問紙で把握することができるという特長があります。

続きまして「3 調査結果の概要」についてです。調査結果においては、全ての学年・教科で、学年が上がるごとに着実な学力の伸びが見られました。国語については約7割、算数・数学については約6～7割の児童生徒の学力が伸びております。また、学級風土（クラスの雰囲気や先生・友達との人間関係）について、約9割の児童生徒が肯定的な回答をしております。

続きまして、「4 教職員の調査実施に対する感想や要望」です。1枚おめくりいただき、囲みの中にモデル校の教職員の感想や要望を記載しております。感想には、調査結果を踏まえて指導する際に意識するようにした点や児童生徒に対する効果的な取組等、調査に関する肯定的な感想が多くあり、実際の指導に生かすことができました。一方で、要望には、教員や児童生徒の負担軽減をはじめとする調査実施に係る業務の効率化や精選に関する内容が見られました。

続きまして、「5 保護者アンケート結果概要」です。保護者アンケートの結果からは、学力の伸びやそれに対する学習に関するアドバイスをしっかり受け止められる個人結果票のよさを感じている保護者が多くいることが分かりました。同時に、児童生徒のやる気の創出や学習に係る親子のコミュニケーションの機会の提供にもつながっており、保護者に対する効果が確認されております。

次のページにまいりまして、「6 モデル実施の成果」についてです。成果としては4点あげております。一つ目は「教職員の意識の変容」についてです。学習内容の習得だけでなく、学力を支える「非認知能力」などに注目する意識が、モデル校の教職員に広がってきました。ページの下の方のケース①の事例につきましても、対話しやすい学級経営や主体的に学ぶための授業の工夫に力を入れた結果、それぞれの数値が上がったという例を示しております。二つ目は、結果を踏まえて児童生徒に合った指導や言葉かけができたというものです。表のケース②や③はその具体例になります。いずれも、学力層レベルごとのデータや伸びの状況など、これまでは見られなかった側面に注目し、手立てを考え、指導ができたという事例です。三つ目は、「児童生徒の意欲の創出」ですが、学力が高い・低いに関わらず「伸び」が見られた児童生徒にとっては手ごたえを得ることができるため、意欲を引き出すというものです。ケース④は学習意欲をさらに引き出し、主体的に参加できる授業の工夫をすることで、学力の向上につながった例になります。

四つ目に、「小中で連携した指導の実施」です。同一集団を経年で調査することによって、小中学校の教職員が子供の育ちについて共有し、中学校区全体としての取組を強化することにつながりました。このように、モデル校で調査を実施することでPDCAサイクルを

回して、授業や指導の改善を行い、学力の伸びを促すことができるという分析にいたりました。

続きまして、「7 モデル実施の課題」について、4点挙げさせていただいております。

一つ目は、「全国学力・学習状況調査との重なりによる負担」です。小学6年生と中学3年生は、4月から全国学力・学習状況調査が実施されますので、その実施から約1か月後に本調査の実施となります。特に、中学3年生は、短期間に2度調査を行うことにより、年度初めの授業実施に支障があるというものでございました。

二つ目は、「中学3年生の調査結果の活用について」です。調査を実施し、結果の返却を受け、その結果の吟味や指導の改善や工夫を考える研修会は秋に行われることから、中学3年生は結果を反映させた授業改善を実施する期間が非常に短いというものでした。

三つ目は、「教員の負担」についてです。特に調査の事前・事後の作業等の負担が大きいことが、課題として挙げられています。

四つ目は、「提供される帳票の読み取りや分析」について、提供される帳票の読み取りや分析が非常に細かく、負担になり、各学校・学年で、授業に活用するには提供されるデータを教育委員会で加工する必要がありました。

以上の成果、課題を踏まえて、「8 令和6年度以降の実施について」をまとめております。モデル実施は、児童生徒への指導方法の工夫改善に資すると認められたことから、課題を改善しながらステップアップ調査を全校で展開していくことといたしました。実施方法につきましては、全小中学校で国語、算数・数学の2教科と質問紙調査を実施します。対象は、小学4年生から中学2年生までとします。調査方法は、調査の事前事後に教職員の作業の負担が軽減するよう、C B T（コンピューターベースでのテスト）による実施といたします。

実施・活用支援につきましては、教育委員会で調査データを見やすいものに整理した「調査分析活用シート」や「個別支援シート」の作成・提供を行い、その分析シートに基づいて各校で活用に係る研修会を実施します。

説明は、以上です。

(質疑・意見等)

○井上委員 このステップアップ調査は、令和6年度から全校で実施とのことですが、教職員の負担が大きいという感想も出ています。全校で実施するに当たって、その改善の見込みがあるということなのでしょうか。

○教育指導課指導主事 モデル校では、紙ベースの調査を行ってきました。紙ベースの調査ですと、調査資材の受け取りや数の確認、回収、個人番号の確認など、教職員の作業が多かったのですが、全校展開する際には、コンピューターベースでのテストとする予定です。初年度については慣れない入力作業があるので少し負担はあるかもしれませんが、全体としては大幅に改善されると見込んでおります。

○井上委員 テストは、児童生徒が直接コンピューターに入力して実施すると思いますが、その後の教職員の入力作業や処理作業は、どのくらいありますか。

○教育指導課指導主事 児童生徒が入力するとその回答がそのままデータベースに送られ、それが正しく送られているかどうかという確認作業のみで、個人番号の確認等、1件ごとの確認作業はなくなり、重複してデータを入力してしまっている児童生徒がいないかなどの確認作業のみとなります。

○益田委員 実際に、各家庭に返却される形は報告書14ページに記載されているものでよろしいでしょうか。

○教育指導課指導主事 報告書14ページにある二つの表は教員へ返すためのものです。報告書には、児童生徒に返す個人結果票のサンプルは載せてはいませんが、近いものと13ページの右下の図のような一人ひとりの学力レベルの「伸び」を示すものとそれに対する学習へのアドバイスが書かれたものを児童生徒に返却します。

○益田委員 結果を返した後、特に保護者の方と面談などはないのでしょうか。

○教育指導課指導主事 保護者との面談週間の前に個人結果を返す工夫をしている学校もあります。教育委員会として全ての実施校に面談の実施は依頼していませんが、学校の裁量に任せているところです。

(その他質疑・意見等なし)

○柳下教育長 次に、報告事項(2)「市議会12月定例会・決算特別委員会の概要について」は資料配布とさせていただきますので、御了承ください。

○柳下教育長 以上で、先ほど非公開とすることにいたしました案件以外の議題は終了いたしました。会議を非公開とする前に、その他として、委員、又は事務局から何かありますか。

(「なし」という声あり)

○柳下教育長 ないようですので、これより非公開といたします。関係者以外の方は、御退席ください。

(関係者以外退席)

(2) 日程第1 議案第1号 市議会定例会提出議案(令和6年度小田原市一般会計予算)に同意することについて (教育部・文化部・青少年課)
【非公開】

採決…全員賛成により原案のとおり可決確定

7 柳下教育長閉会宣言

令和6年2月21日

柳下教育長

署名委員（益田委員）

署名委員（井上委員）